

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1090700061		
法人名	医療法人 六花会		
事業所名	グループホームあんず		
所在地	群馬県館林市代官町8-15		
自己評価作成日	令和7年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和7年 3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①あんずの家族として穏やかに生活できる。 ②地域のつながりを大切にし、楽しく交流を図り開かれた施設でありたい ③見守り、待つゆとりを持ってできることをみつけ、支援する 上記の理念をあげ、その人らしく生活できるように職員全員で日々、努力をしています。定期的に、併設しているデイサービスと合同で行事を行ったり、外出行事を行ったりしています。また、近くの系列の協力病院があるので状態の急変にも対応できる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者支援においては、できないのでなくて、どうしたらできるのかと考えて、お墓参りに行きたい利用者には付き添って先祖のお墓を探したり、法要に参列したい利用者には貸衣装で礼服を借りて送迎を行ったりと個別支援に取り組んでいる。また、イベント食や誕生日会にも力を入れ、利用者の好きな物や生活歴からヒントを得て、誕生日にその人にちなんだケーキを作り提供している。職員会議や申し送りは、上下関係なく互いに意見を出し検討し合う場となっており、職員の意見が様々な行事の企画や入浴方法などの支援に活かされている。協力病院の医師の行き来が頻回にあるなかで、管理者や職員は医師と顔の見える関係ができており、利用者の健康管理や医療相談だけでなく、感染症対策や面会の再開などについても専門的な指導を受けられる体制がある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者が共に「①あんずの家族として穏やかに生活できる②地域とのつながりを大切に、楽しく交流を図り、開かれた施設でありたい。③見守り待つゆとりを持ってできることを見つけ、支援する」という理念を考え出している。理念は共有され、入居者に合わせた個別ケアを実践し、それを有する能力に応じて自立した日常生活を送れるように取り組んでいる。	事業所は3つの運営理念を掲げ、地域と交流を図りながらその人の力に合わせて穏やかに生活できるよう支援している。職員がゆとりを持って支援することで利用者のできることを見つけ、能力に合わせた生活が送れる様に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウィルス感染予防の為に、ご近所づきあいが、ほとんど出来ていない状況である。しかし、徐々に夏祭りや資源回収等に協力を行っている。	利用者は職員と一緒に地域行事に参加している。地域の夏祭りでは神輿の休憩所となり、利用者が集まった人たちにすいかを振る舞う場面がある。住民との繋がりを大切に、日常的に挨拶を交わし、地域の廃品回収に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの流行の為に、対応が難しいが、入居の申し込みの際に、介護相談を受けている。今回2名の方が認知症相談窓口の研修に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の協力してもらい、災害発生時の対応や感染症予防・身体拘束防止の意見交換・アドバイスをを行っている。基本的なことであるが、メンバーに議事録の配付、玄関に運営推進会議の議事録を置いている。	地域には一人住まいの方が多く等の実情を理解したり、民生委員からの相談を受けたりしている。顔の見える関係が、万一の災害や利用者の離園の際等の協力関係に繋がると考えている。利用者に提供のお汁粉などを試食してもらい、事業所の取り組みを伝える機会としている。	家族の参加が実現し、事業所の取り組みを知ってもらい、運営に参加する機会となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者への多岐にわたる報告や相談をしている。事故や加算、料金について等、相談できる関係を築いている。	加算など分からないことを市に確認したり、事故報告を行ったり、また、認定審査会委員を引き受けたりと、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、「身体拘束について」研修会を実施している。「ちょっと待って」のスピーチロックは、職員間相互で注意している。また、事故につながる利用者の危険な生活習慣や、機能低下による歩行困難等の情報を職員で共有し、観察と見守り・声掛けに取り組んでいる。	委員会、研修会を年間計画に挙げて開催し、職員全員で取り組んでいる。ベッドから降りる行為そのものを柵で防止するのではなく、降りた際に怪我をしないような環境づくりを工夫し、眼を離さないケアを実践している。スピーチロックについても職員間で注意し合い、意識を持って対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員は高齢者虐待関連法について話し合い、虐待がどのようなものかを理解し、虐待を見逃さないように努めている。また、定期的に施設内で勉強会を行っており、指針等も活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいないが、マニュアルを作成し、また、必要な方には援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より、話あったり、ホーム内を見学したり、ホーム内を見学していただき、あんずでの生活の疑問点等を利用者やご家族から質問していただきお答えしている。入居時にも同様に不安や疑問のある点は説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に、家族の意見や思いを聞いている。面会は現在は玄関先まで入居者を案内し距離を保ちながら面会をしてもらっている。	面会時に家族の意見を聴取し、利用者の髪染め等についての要望を受けて個別に対応しているが、運営に関する意見までには至っていない。面会については、協力病院の医師に相談し対応を検討するなかで、家族が利用者に会える機会を大切に考えて対策を講じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事なことは管理者が独断で判断するのではなく、職員と話し合いで決めている。また、毎月の職員会議の他、常に職員の意見や提案に耳を傾け、管理者、設置者は運営に反映している。	職員が気付くさまざまな意見を即時に実行に移し、購入する洗剤の種類の変更、入浴方法を検討した浴槽の設置などに活かしている。上下関係なく、日頃から職員が意見を言い易い環境を作り、申し送りや職員会議でも広く意見を聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数に応じた到達目標を設定し、到達時には給料に反映するシステムを作っている。また、有休をとりやすい体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議等で話し合いを行い互い介護方法の情報交換を行っている。また、定期的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に系列の施設間で法人会議を行って、意見交換を行っている。姉妹法人の施設にグループホームがあり、電話等を利用して意見交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族にあんずでの生活をどのようなものにしていくか希望を聞くようにしている。現在、コロナウィルス感染予防のために、中を見ていただくことは控えている。部屋等の写真とを見てもらい状況を把握してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込み書に本人の状態について記載する欄があり、また、ご家族や本人と面談し、現在の困りことや不安なことについて聞くように勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の際は、現在どのような状況であるか聞き取りを行っている。また、入所が困難な場合は、他の施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より地域の民話や地名の由来等を教えてもらっている。 また、洗濯物等できる家事等は手伝ってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染予防のために、玄関先で面会を行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話等があった場合は、電話口に案内をしている。近況を手紙にて家族に伝えている。	毎月郵送する便りに、利用者を書いてもらった「ひと言」を同封している。また、誕生日に家族から頂いたプレゼントを手にした利用者の写真を送るなど、家族とのつながりを大切にしている。その他、知人からの年賀状の返事が書けるよう支援したり、これまで親しんで来た神社を参拝したり、記憶を辿っての墓参りなどにも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話でお互いが励ましあっている様子が見受けられる。足腰が不自由な人のために座る際、椅子を引くなど危険のない場合は職員が見守りを行い、無理に止めないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、病院への入院が多く、継続的に面会や相談を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人と家族から趣味や暮らし方の希望等を聴取し、サービスに活かしている。そうしたなか、職員が針に糸を通し、利用者に雑巾を縫ってもらっている。その他、利用者の意向で、髪染めは入浴時にしたり、美容院へ職員が付き添ったり、利用者の希望にあわせた対応をしている。	入居時に基本情報のなかに性格を記載してもらい、今後の生活を送るうえでの参考としている。趣味や特技を活かして歌や裁縫を支援し、趣味のない方には塗り絵など好きなことができるよう検討している。その人のこれまでの経験や好きなものを把握して、誕生日にはその人ならではの祝いのお祝いケーキなどで演出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしの援助として、入所時に生活歴の聞き取りを行いバックグラウンドの把握に努めている。また、お部屋に持ってきていただいているものもや、箸、茶碗等はなるべく、以前から使っていたものを用意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄パターンのやバイタル等を観察している。また、昼夜問わずに様子を観察し、その利用者にあったペースで生活できるように努力し、職員間で情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアのために、入居者の状態の申し送り常に行っている。月一回の職員会議でケアカンファレンスを実施し、意見交換を行い、それをもとにケアプランを作成している。また、月に一度モニタリングを行い、ケアカンファレンスの議題としている。	申し送りや職員会議を通して状態を把握し、課題を抽出してケアプランを作成している。食事・入浴など各項目において広い視点での課題に対して、提供するサービス内容が詳細に記載されている。毎月、利用者の状態やサービス提供状況を確認し、6ヶ月毎にケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をとり、それを見てアセスメントの取り直しやモニタリングを実施し、ケアカンファレンスの議題としている。また、面会時に家族の意見や思いを伝えられた職員はメモ等で申し送り漏れのないようにしている。家族の意見もケアプランに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が会いに来られたときに、要望を聞き出ししているが、コロナウィルス感染予防のために、直接面会・外出等は控えさせていただいている。また、24時間相談可能な協力病院がある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染予防のために、地域とのかかわりは控えている状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	館林記念病院がかかりつけ医になっている方が多いが他病院に受診の際は職員が同行して行い指導を受けている。 また、急変時は館林記念病院が対応してくれている。	協力病院がかかりつけ医となり、散歩を兼ねて、月1回通院している。関連の訪問看護ステーションから週1回看護師が訪問して健康管理を行い、協力病院と連携を図っている。協力病院をかかりつけ医とする場合には、これまでの主治医から診療情報提供者を受け、適切な医療が受けられるように対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時に対応できるように近くの協力病院と連携を取っている。また、医療連携体制加算を算定し、訪問看護ステーションとも、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは、なるべく面会に行くようにしている。退院時は情報提供書をもらうようにしている。主治医の病院以外の場合は、紹介状をいただくようにして、スムーズに施設の生活に復帰できるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族、本人に重度化した場合や看取りについて、事業所でできることを説明している。利用者の病状が進み、経口的摂取が困難になった場合は、医師から利用者、家族への説明を行い、希望に対応した支援をしている。	入居時や状態変化の折など、機会をみて利用者・家族の意向を確認し、後悔が残らないように十分に話し合っ対応している。事業所での看取りでは、訪問看護・協力病院と連携して支援し、家族が面会できるよう出入口近くに移室するなど柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備え、会議を行っている。また、マニュアルを活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間想定で、消防署への通報や避難通路の確認等の避難訓練を実施している。その他、近くの川が大雨で氾濫した想定で行っており、土嚢を準備している。地域の人々への働きかけには、至っていない。	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議で災害時のアルファ米を試食してもらうなど、利用者の立場で検討している。近隣の住宅に災害時の声かけをしているが、具体的な構築には至っていない。協力病院や関連施設と連携した体制づくりを具体的に進めているところである。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時、利用者の呼ばれ方を家族に確認している。トイレ内の介助はドアを閉めることや、同性介助を優先すること、また、トイレ、入浴支援では、言葉を選び、タオルを利用し肌の露出を防ぐ工夫に努めている。	利用者の尊厳を守るには、職員との距離感も大切な要素であると考えている。そのため、信頼関係の下で、誇りを損なわないような言動に留意している。尊厳を守るとは、自立支援を支えることと考え、残存能力を活かした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方には食事の時間だけを決め、他は自由に過ごしていただき、自己決定できる機会を作っている。また、声かけ、多くするようにし、要望や意見を言いやすい環境をつくっている。また、本人の意向について、記録物や申し送りで全員が把握できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるように、無理強いせず、意欲が出る言葉がけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に来てくださる、美容師の方をお願いしている。白髪染めを本人の要望に合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する担当職員が、献立作成から調理・配膳をしている。利用者の嗜好や健康状態に応じ、1週間毎の献立表を表示している。玉ねぎの皮むきや器に片付けるなど、利用者のできることを大切に支援している。	食事づくりの音や匂いが感じられるなかで、利用者も食材を刻んだり、食器を拭いたり、できることに参画している。誕生日にはリクエストに応えた料理を提供し、意思表示が難しい場合は普段の摂取状況から、食が進むメニューを提供している。食事の様子を観察して食形態を変えたりと、負担なく摂取できるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の申し送り等により、代替食なども工夫している。また、職員の中に調理士がおり、栄養バランスを考えた献立を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、入居者の能力に応じた介助を行っている。また、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表と利用者の習慣を把握し、トイレ誘導している。夜間の場合、尿パットを利用して安眠できる支援に努めている。	トイレでの排泄を支援しており、できることは自分でしてもらうように見守り、衣類が汚れるようなことが頻回にあれば介助に入るようにしている。トイレ排泄が継続できるようにと、昼間はできるだけ身体を動かす促しを行っている。夜間は熟睡できるよう大きなパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝10時のヨーグルを召し上がってもらい。便秘の予防を行っている。また、日ごろから食物繊維が豊富なものをメニューに加えている。また便秘がある方は先生と相談しながら対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の午後の時間帯に、個浴によるお喋りしながらの入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、間を置き再度誘ったり、職員を変え再度誘ったりしている。また、ゆず湯や菖蒲湯等季節の香りを楽しむ入浴支援をしている。	隣接するデイサービスでの試みを取り入れて、月1回の変り湯を提供している。グレープフルーツなどの果物を浮かべて、香りで入浴が億劫な気持ちが楽しい時間になるよう支援している。好きなシャンプーを持参して頂くなど、満足できる入浴に努めている。浴槽の跨ぎが困難な場合は、デイサービスの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、フロアにてテレビを見ていたい方は見ていただき、その人の入眠時間に合わせて対応している。また、本人の寝やすい衣類等に替えていただく。また、夜間、安心して睡眠がとっていただけるように、気づかれぬように巡視を行っている。眠れないと訴えがあった場合は話を聞き安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服薬の説明があり、職員が把握できるようにして、服薬を支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が持っていた趣味等をレクリエーションに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と職員が一緒に外出できるお花見を企画している。天気の良い日には事業所の中庭に出て外の空気を吸い、お茶を飲んだり、散歩は利用者の希望に応じて支援をしたりしている。	毎月変わる花手水の鑑賞を楽しみに、神社へ散歩に出掛けている。お墓参りに行って先祖のお墓を探したり、喪服をレンタルして法事に参列したりしている。無理と思わずにどうしたらできるかと考え、これまでと変わらない外出ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理しているが、しかし、コロナウィルス感染予防のために、一緒に買い物に出かけることは控えさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、事務所の電話を利用してもらっている。ご家族や知人から電話があった場合は電話口に案内している。また、手紙等を出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員一緒に掃除をしており、大型空気清浄機を設置している。食堂・居間には、利用者が作成した季節毎の作品や写真が飾られている。食卓には利用者の様子を見ながら案内し、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるようにしている。	利用者の互いの関係性に配慮して、席次を決めている。食堂・居間は陽当たりが良く、皆で集まって相撲や高校野球の応援を楽しみ、落ち着いて過ごせるスペースとなっている。利用者の作品や日めくりカレンダーが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事等、気のあった人と食べれるようにテーブルを分けている。一人になりたいときは自由に部屋に戻ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン・洗面台・クローゼットなどの家具類は、居室に設置されている。危険な物以外の持ち込み自由であり、使い慣れたベッドや家族の写真、を持ち込み、居心地よく自由に過ごせるようにしている。	各ユニットで、自分の居室が分かるような表示を工夫している。各室にエアコンと照明が常設され、ベッドは持ち込み、またはリースでも対応している。仏壇や位牌、タンスやテレビ、大切にしているぬいぐるみなどが持ち込まれ、それぞれが落ち着いて過ごせる居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力にあわせ、自分のお部屋がわからないような方は表札や目印を用意している。また、個別ケアを心がけ、その人に合った生活ができるように配慮している。		